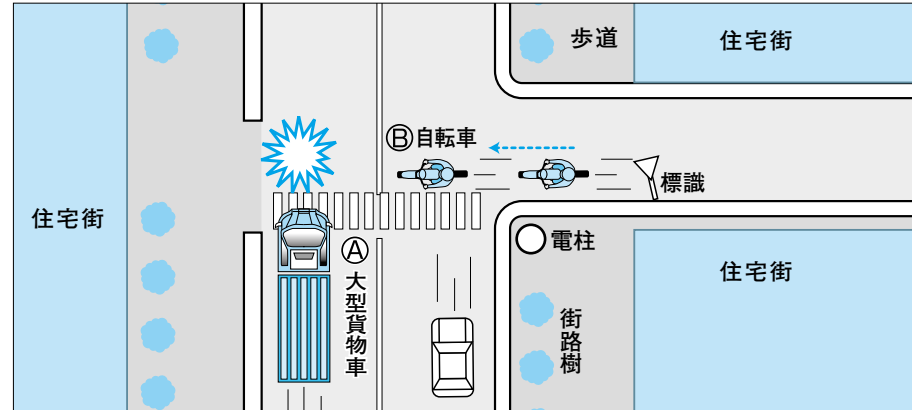


職場における交通安全指導

Part 78

T字路交差点を直進する際、坂道を下ってきた自転車と衝突



■事故の概要

- 発生状況
 - 日時：平成20年9月某日 午前5時頃
 - 天候：曇り
- 道路状況
 - 片側一車線道路と狭い道路が交わる市道交差点
- 事故の当事者
 - 運転者A（大型貨物車）：28歳、男性
 - 被害者B（自転車）：72歳、男性
- 被害状況
 - A：前部バンパー破損
 - B：左肘骨折、全身打撲（全治2か月）

事故状況

Aは入社後間がないが、過去6年間運送会社で乗務経験があることから、入社当初より大型貨物車を運転し輸送業務に従事していた。

事故歴は、以前に物損事故を起こして以来長い間無事故であったが、最近になり人身事故を起こし、その事故が契機となり前の会社を辞め当社に転職した。

Aは、積極的な仕事ぶりを持ち前の明るい性格から社内での評価は悪くなかったが、反面、ややせっかちで行動が先走りするところがあり、車の運転においても慎重さを欠く場面が時折見受けられたことから、上司から指摘を受けたこともあった。

事故当日は、大型貨物車で食品の配送を行うため、未明に会社を出発し倉庫で荷物を積み込み、

次の目的地を目指し郊外の閑静な住宅街を走行中であった。早朝で車や人通りは疎らで、忙しい積み込みを終えた安堵感からリラックスした状態で走行していた。

なだらかな下り坂を走行しているうち自然に惰力が加わり、スピードはややオーバー気味で事故発生場所の交差点に向かった。

事故発生場所は、信号機のないT字路交差点であるが、Aは直進するつもりで交差点に接近中、対向車1台が走行しているのを認めたものの他に人影は見当たらなかったことから、そのままのスピードで走行していた。

Aは交差点の直近で、走行中の道路に合流する住宅街の狭い通りへ視線を向けたが、電柱や木立が眼に写っただけで車や人影は見当たらなかったことから、減速することなく横断歩道を通過しようとした時、右側の電柱の陰から自転車が2台、急に現れたため慌ててブレーキをかけたが間に合わず、最初に進行してきたBが乗用する自転車を前部バンパーではねて転倒させ、Bに怪我を負わせてしまった。

この事故原因は、見通しが悪く、しかも信号のないT字路交差点を直進する際、Aが減速しないで交差点を通過しようとして、交差道路への安全確認を怠り走行したため、Bの発見が遅れたことにある。

一方、Bも交差点に進入する際、仲間との話に夢中になり一時停止の標識を無視し、しかも安全確認を怠り交差点に進入したことは無謀な走行であった。

安全指導

反省と工夫

Aは、最近人身事故を起こしたばかりで再び事故を起こしてしまいましたが、2件とも住宅街の信号のない交差点で発生した事故でした。

それまで仕事が順調に運び、長い間無事故で、しかも運転テクニックの面でも人一倍自負心が強かったことから、事故原因を反省することもせず、また、人の指導を教訓として生かすこともなく運転に過信が芽生え、慢心している状況の中で再び同じような事故を起こしてしまいました。

人はミスをする動物であり、運転にも常に事故のリスクが付きまとうものです。

事故を防止するには、起こした事故を振り返り、反省を加え、また、安全のための工夫を凝らすことが重要なポイントです。

事故の再発防止のためには、運転の三要素である認知・判断・操作にミスが生じないように、例えば住宅街であれば自転車・歩行者の早期発見、信号のない交差点での優先判断、危険回避のブレーキ操作等に工夫を凝らすことも重要です。

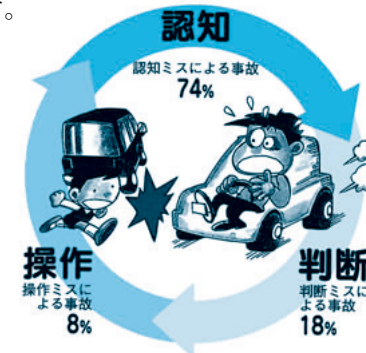
ある専門機関が30年間無事故・無違反の優良運転者を対象にした調査の結果をみると、その殆どの方は自分の運転を振り返り、反省と工夫を凝らしている姿が浮き彫りになります。

運転者にとって事故を起こさないための配慮は欠かせませんが、事故を振り返り、「反省と工夫」を凝らし、再発防止に努めることが肝要です。

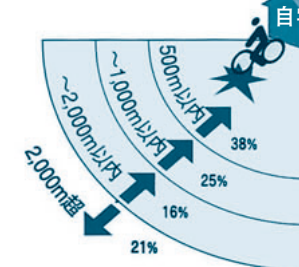
住宅街の走行に注意

今回の事故では、Aの視界が電柱や木立で遮られた部分もありましたが、慎重に注視していれば事前にBの発見は十分可能でした。

住宅街では、歩行者や自転車は自宅近辺の慣れ親しんだ生活道路という気安さから、信号や標識を無視し、また、路地からの飛出しや車の直前横断等、運転者が予期しない大胆な行動に出ることが予想されます。



●自転車事故の発生状況



郊外の閑静な住宅街で、信号のない交差点、とりわけ早朝の時間帯は最も事故のリスクが高い状況にあると考え、十分な注意が必要です。気持ちを引き締め、警戒心を旺盛にして、自転車や歩行者の早期発見に努めましょう。

危険を予測した運転

Bは事故発生場所のすぐ近くに自宅があり、当時、近所の仲間と連れ立って近くの公園へ早朝散歩に行く途中で、話に夢中になり、標識も確認せずに交差点に進入しました。

このように生活道路では、自転車利用者の危険な走行が目立ち、なかでも高齢者は心身機能の低下などによって、周囲への警戒心も乏しく安全確認が甘くなり、予想外の危険行動に出ることが少なくありません。

その実態を踏まえ、生活道路を通行する際には、高齢者など通行者のルール遵守を安易に期待せず、常に危険な行動に出ることを予想した運転を実践して、事故回避に向けた危険予測運転を心掛けましょう。

出会い頭の事故に注意

自転車事故で最も多いのが出会い頭の衝突事故で、その大半は信号がなく、しかも交通量の少ない、見た目に危険を感じさせないような住宅街の交差点で発生しています。

特に自転車乗用者の自宅周辺で信号のない交差点で発生していることを念頭に置き、たとえ交差道路側に一時停止の標識があっても優先道路と甘んじることなく、安全確認もせず交差点に進入してくる自転車やバイクとの出会い頭事故に備え、瞬時に危険を回避できる措置が取れるよう、その動向に十分注意しましょう。

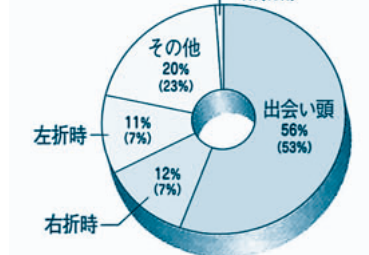
●自転車事故の道路形状別発生状況

有信号交差点	無信号交差点	単路
21% (25%)	52% (37%)	23% (29%)

※()内は死亡事故

交差点付近 3% (9%)

●自転車事故の類型別発生状況



※()内は死亡事故